［論　文］

利根川中流域の女人信仰―野田市・十九夜塔を中心として―

石田年子

はじめに

野田市中里にある万蔵寺の墓地内に、赤子を抱く観音の刻まれた墓石がある。正徳年間造立のその石塔は「信女」と「童子」の命日が同日となっており、おそらくは難産で亡くなった母子の供養塔だろうと推測している。

女性にとって出産は昔も今も一大事業である。無事出産が為されれば大きな喜びとなるが、ひとたび難産となれば死を賭す危険も孕んでいる。

仏教思想から来るものであるが、かつて女人は誰彼の区別なく月々の生理や出産の出血による穢れの科により、死後は「八万由旬の血ノ池地獄」に堕するものと信じられ、産婦が難産の末に亡くなることは非常に畏れられており、産死者には特に篤い供養が為されていた。

例えば、お産で亡くなった産婦の家では水辺に四本の竹を立てて布を張り、その中に死者の毛髪や簪などの愛用品を置き、用意した柄杓（ひしゃく）で通りがかりの人々に水を掛けてもらう「流れ潅頂（ながれかんじょう）」という特殊な回向がおこなわれていた。多くの人々に柄杓で水を手向けて貰う事で産死婦の流した血が洗い清められ、成仏が出来るとする呪術的な慣習である。古老達の中にも実見した記憶を持つ方もいることから、当地方にも昭和半ばの頃までこの慣習はあったと思われる。

いつの時代にも、女性にとって安産と子供の健やかな成長は大きな願いである。利根川流域には、その堕地獄からの女人救済と安産・子育を主願とする十九夜念仏という女人信仰が、江戸初期から存在していることが広く知られている。本稿では利根川中流域における十九夜講を中心とする女人信仰の動きを、野田市域の女人講造立の供養塔から追って見ることとしたい。

一　十九夜念仏信仰の概略

（一）十九夜念仏の成立

中国より伝来したとされる日待・月待信仰は古来、貴族達により

執り行なわれてきた信仰行事といわれているが、近世には一般庶民の間に庚申信仰などと共に大きな広がりをみせ、多くの供養塔が残存している。

日待とは一定の日に堂などに人々が集まり、夜を徹して日の出を待つという信仰行事であり、月待は定められた月齢の日に講の人々が集まり、和讃や念仏を唱えながら月の出を待つというもので、十三夜待から二十六夜待が石造物から各地で確認できるようである。現在でも一般家庭でおこなわれている、十月十五日の満月の日に団子やススキを供える、十五夜様と称する季節行事はその名残りと云える。

この月待信仰の一種と考えられる十九夜信仰は、主に栃木県・茨城県・千葉県・埼玉県等の利根川水系地域の女性達に広く受入れられた民間信仰で、現在も夥しい十九夜塔がこの周辺に残存している。

（二）十九夜信仰の発祥地

月待信仰の代表的なものとして二十三夜待があり、勢至菩薩を主尊とする供養塔が中世より全国各地に見られるが、十九夜塔の初出は現在のところ、筑波山山麓に位置するつくば市平沢の八幡神社に造立された寛永九年（一六三二）のものである。筑波山産出の雲母片岩を石材とし、稚拙な彫りではあるが日月の下に蓮華座に坐した仏像が刻まれており、造立日が寛永九年壬申三月十九日であることから、十九夜塔と判断されている。

つくば市平沢　八幡神社
初出とされる十九番神社

また翌年の寛永十年の八月にはこの地より二キロ程離れた、つくば市北条新田に「奉造立石塔者十九夜念仏□□」と「十九夜念仏」の銘文入りの塔が造立されており、十九夜念仏の発祥地は当地域周辺ではないかと推測されている。

寛永年間と言えば、常陸地方は筑波山山麓を中心に出羽国・湯殿山の大日信仰が大きな盛り上がりをみせた時期である。それに呼応するかのように、同時期にこの周辺には時念仏塔や歌踊念仏塔などの珍しい念仏塔も造立されていることもあり、十九夜念仏もこのブームの最中に生み出された信仰ではなかろうか。

筑波山山麓から始まった十九夜塔の造立は、二十六年後の万治元年（一六五八）に、利根川べりの布川河岸（茨城県・利根町）にある徳満寺に如意輪観音の線彫りを刻んだ板碑型の十九夜念仏供養塔として姿を現し、以後利根川流域には如意輪観音を主尊とする女人信仰・十九夜念仏講による膨大な十九夜塔の造立が始まるのである。

（三）十九夜念仏の主願

江戸川の西岸に位置する埼玉・幸手市神明内の路傍に立つ文化四年（一八〇七）造立の十九夜塔の正面に、十九夜念仏信仰の内容を現した十九夜念仏和讃が刻まれているので、次ぎに記してみたい。

「帰命頂礼女人こそ、憐れ不浄の身を持ちて、今朝は水晶も濁り水、月に一度の不浄水、せうなの下の井の下で、洗い流してその水が、積もり溜まりて池になる。呵責の鬼が集まりて、呑めよ干せよと責めかかる。其の時十九夜観世音、拭い給ふぞありがたき、朝な夕なの目覚めにも、忘れまいぞや女人ども」

現在では一笑に伏される内容であるが、これは「血盆経」という経がベースとなっている。当経は、女性の出産や月経で流す血を穢

れとし、その血が地神を穢す罪により、女人は全て八万由旬の血ノ池地獄に堕して獄卒の責め苦に遭うとされ、此の地獄からの脱出法を血盆経の読誦・書写をひたすら行い、仏による救済を願うことであるとする。

その血盆経と、血の池地獄よりの女人救済に功徳があると信じられている如意輪観音との習合が十九夜念仏をかたち作ったと思われるが、他地域にも如意輪観音を主尊とする十六夜講・十七夜講・二十二夜講などの月待女人講が同じパターンで存在することから、必ずしも十九夜講特有の考え方ではないのではないかとも思われる。

十九日の夜に集まった女性達が女人成仏と安産・求子の願いを託し、如意輪観音の掛け軸に十九夜念仏和讃や念仏を唱えた後に会食をする、というのが会合の基本形である。講員は出産可能年齢期の比較的若い女性の場合が多い。

二　北総地方の女人講

下総地方の女人講は多彩であるが、中でも代表的な女人信仰とされるものは十九夜講・子安講・待道講の三講である。それらに関る供養塔数を市町村別にまとめた筆者作成の表等から近世・近代における北総地方・利根川べりの女人講の動きを推考してみたい。

（一）女人講の変遷

江戸初期から始まった北総（東葛飾郡・印旛郡）における十九夜塔の造立は、幾多の変遷をみながら昭和六十年代まで続けられ、現在一五〇〇基余りの塔が確認されている。

図1の折れ線グラフが示すように、寛文年代から六十年間余り爆発的に続いた塔の造立が、六十年余を経た享保五年（一七二〇）以降に三分の二程度に落込んだ時期がある。この時期の元文年間に印西市、八千代市に「子安大明神」「子安釈迦」など子安の名を冠した供養塔の造立が見え、江戸後期に北総の女人信仰の流れを大きく変える「子安信仰」の萌芽が始まっている。

又、安永年間からは東葛地方と茨城県南部（取手市）を中心に、「安産・子育・求子」を主願とする待道塔の造立も始まる。

①子安信仰

八千代市・印西市周辺に始まる北総の子安信仰は、元文年間から四十年余を揺籃期とし、安永年代から北総の村々に大きく広がっていく様子が図1で見て取れる。明治半ばに入ると十九夜塔の造立は大幅に減少するが、赤子を抱く観音像を刻んだ子安塔は明治以降も右肩上がりに続けられ、平成年代に入ってもわずかながら造立が為されている事は驚きであり、いつの時代にも子供の健やかな成長は女性達の願いであることを感じさせる。

では江戸後期に下総地方の女性達をこのように引きつけた子安講の魅力とは何だったのだろうか。子安講の本願は「求子・安産・子の健やかな成長」とされるが、講発祥当時の本来の目的とは「亡き吾が子への供養・鎮魂」だったのではなかろうか。

利根川べりの下総地方は当時、幾度もの水害や大飢饉が発生しており、その度毎に疫病や栄養失調によって真っ先に幼い子供の命が失われ、また、生活維持の為の間引きなども横行している。多産であったことも相俟って、大半の母親達が吾が子の死を経験していたと思われる。

日本では古来より、「非業の死を遂げた霊の供養を怠ると、成仏できずに迷う霊魂が現世に生きる人々に障りを為す」という考えが定着していた。

死した子供が賽の河原で父母を求めさまよう姿を哀しく詠った『賽の河原の地蔵和讃』はあまりにも有名である。母に抱かれるこ

図１　下総地方の十九夜塔・子安塔造立の推移

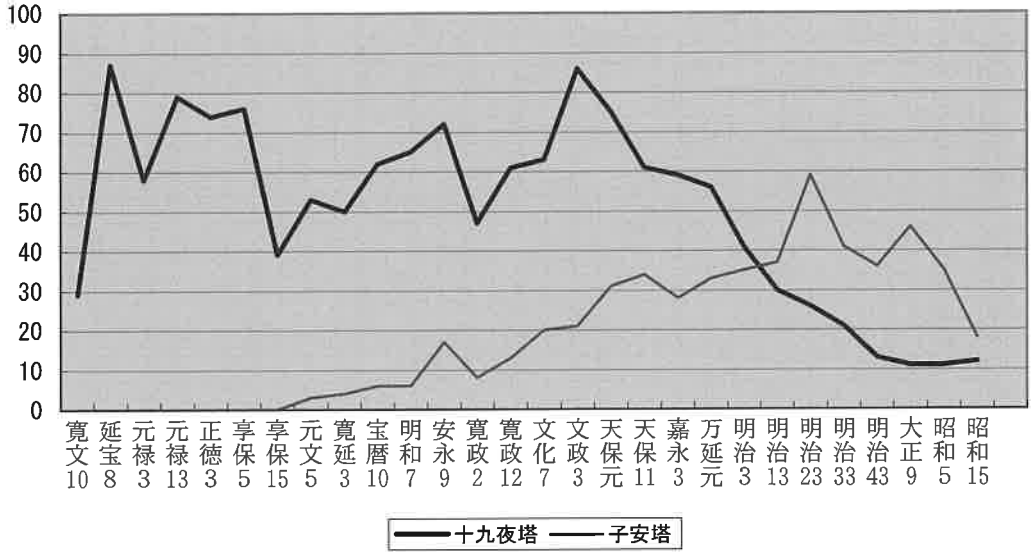


図2　利根川中流域図

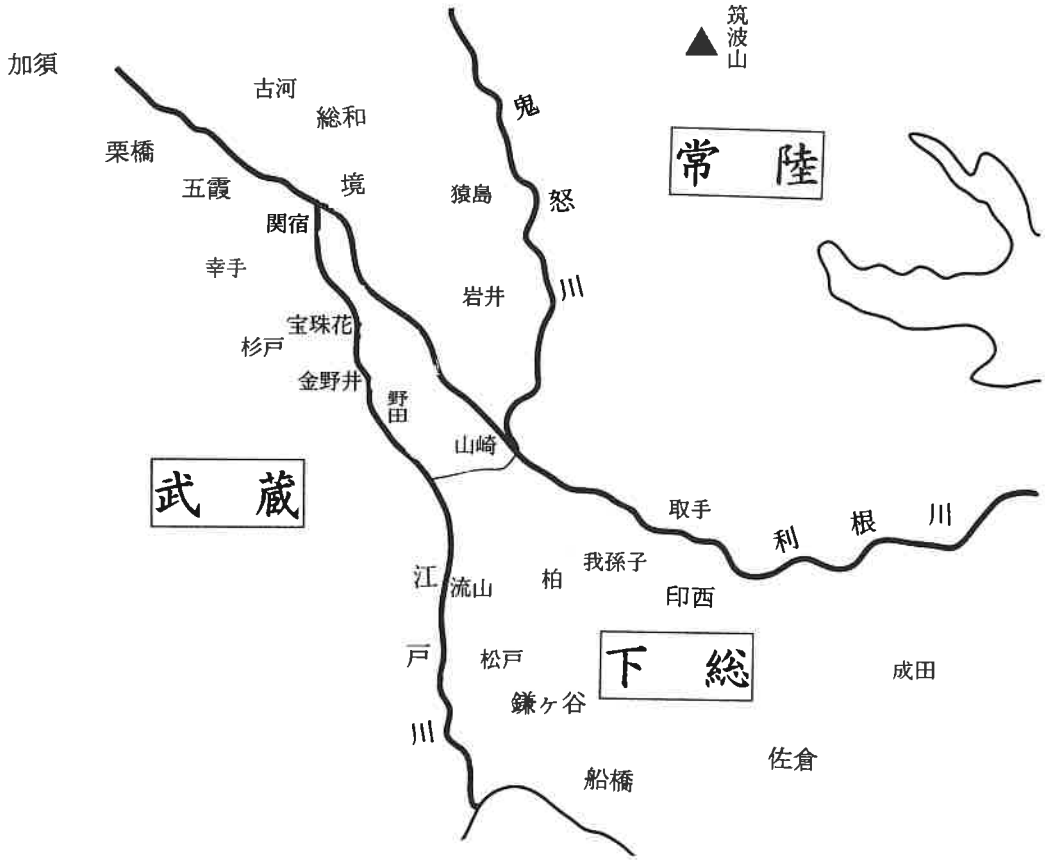


表１　下総地方の年代別十九夜塔造立数

年号	西暦	野田	流山	松戸	我孫子	柏	船橋	鎌ヶ谷	沼南	白井	印西	本埜	印旛	成田	栄町	習志野	八千代	佐倉	四街道	東庄	
寛文10	1670				5					1	12	3	6					1		1	29
延宝8	1680	2	10	6	7	8	1		7	4	9	4	11	5	5	2	2	1		3	87
元禄3	1690	4		9	5	1	4		9	4	11	4	1	2	4						58
元禄13	1700	2	5	11	7	6	5	1	5	4	12	3	5	4	1	1	1			6	79
正徳3	1710	6	1	4	4	5	11	2	5	3	11	4	5	5	3	1	4				74
享保5	1720	5	3		5	3	7	1	5	5	8	2	8	5	4	3	4	4	2	3	76
享保15	1730	3	1			2	3	1	1	3	6	1	5	2	1	1	5	3		1	39
元文5	1740	6			3		9		1	3	11	2	6	4	2	1	2	1		2	53
寛延3	1750	5			2	2	9		2	3	4	2	2	1	4	6	2	2	3	1	50
宝暦10	1760	6		1	4	1	2	1	2	5	16	2	6	3	2		3	6		2	62
明和7	1770	3				4	4	1	6	9	7		9	2	4	2	8	3	1	2	65
安永9	1780	9	1	2	6	2	4		3	4	8	3	5	7	4	2	5	3		4	72
寛政2	1790	10		2	1		2	1	2	2	5	1	5	3	4	2	2	3	2	1	47
寛政12	1800	12	2		4	4	5	1	3	1	8	3	5	1		1	7	2		2	61
文化7	1810	13	5		3	5	4		2	5	3	3	3	2	3		6	5		1	63
文政3	1820	28	6		5	3	2		1	8	5	1	6	3	4	1	8	1	2	2	86
天保元	1830	28	3		2		1		3	5	13	3	6		3	1	3	2	2		75
天保11	1840	26	3	2	1	2	2		1	2	5	1	1	1	5		5	1	3		61
嘉永3	1850	27	6		1	2			1	2	7	3	1	1	2		4	2			59
万延元	1860	15	8	1	1		1		2	2	11	1	2	2	3		4	2		1	56
明治3	1870	16	2		1		1	1	3	4	5	1					4	2	1		41
明治13	1880	5	2			1	2			4	4	4		2	2			3	1		30
明治23	1890	11	1	1		1				2	3	2			2			3			26
明治33	1900	8	1							2	2	1			1			5	1		21
明治43	1910	2	1				1			1	4			1	1			2			13
大正9	1920	3					1		1		3							2	1		11
昭和5	1930	1					1				5	1	1					2			11
昭和15	1940	1									7							3	1		12
15年以降											2							13	1		16
不明	不明	6	3	2	2	1	6		2	7	14	3	1	5	8	1	7	4			72
合計		263	64	41	69	53	88	10	67	95	221	58	100	61	72	25	86	81	21	32	1507

表２　下総地方の年代別子安塔造立数

年号	西暦	松戸	我孫子	柏	船橋	鎌ヶ谷	沼南	白井	印西	本埜	印旛	成田	栄	佐倉	習志野	八千代	四街道	東庄	
寛文10	1670																		
延宝8	1680																		
元禄3	1690																		
元禄13	1700																		
正徳3	1710																		
享保5	1720																		
享保15	1730																		
元文5	1740								1					1		1			3
寛延3	1750								1		1					2			4
宝暦10	1760								1		1			3		1			6
明和7	1770	1	1								2	1		1			2		8
安永9	1780			1	1					2	4	1	3	1	1	3			17
寛政2	1790		1		1				1		1	1		3		1			9
寛政12	1800				3			1	1					4		2	2		13
文化7	1810				6			1	4		3			3	1	2			20
文政3	1820		1	1	2		1		2	2	4			3		4	2		22
天保元	1830	1	1		4		3	1	2	2	4	1	1	8	1	4			33
天保11	1840	1	2	3	4		1	3	3	2	5	1	1	4	2	3	1	1	37
嘉永3	1850				3	2		3	5		6			1	2	5		1	28
万延元	1860		1		2	1	1		9	2	6			4	1	2	3	2	34
明治3	1870	1			2		1	4	4	2	10		1	5		6			36
明治13	1880				3		1	4	11	1	9		1	3	1		1	2	37
明治23	1890			2	6	3	4	8	12		12	2	1	5	2		2		59
明治33	1900				6			4	15	2	6			3	2		2	1	41
明治43	1910				3		1	3	9	3	8			6			2	1	36
大正9	1920		2	1	6	1	1	4	14	3	8			5			2	1	48
昭和5	1930				7	1		4	8	3	7	1		3				1	35
昭和15	1940				2	1	1	3	5	1				5					18
15年以降			2		13	1		7	9	2	12			19					65
不明	不明	1		1	4				8		2		3	9	1	2	4	3	38
合計		5	11	9	78	10	15	50	125	27	111	8	11	99	14	38	23	13	647

とも無くこの世を去った吾子の死を「非業の死」ととらえ、「冥府で迷う亡き子の成仏なくして一家の安泰はない」とする御霊信仰が、子安講の奥底に存在したのではなかろうか。

赤子に乳を与える慈愛に充ちた子安観音に、自身の姿を重ね合わせ、「御魂安かれ」と月々の子安講で祈ることは、子供を亡くした母親自身にも大きな安らぎとなったことであろう。

②待道信仰

待道信仰は、千葉県・東葛地方と茨城県の取手市・旧藤代町をおもな範囲として、化政期より爆発的に流布された「求子・安産・子育」を主願とする女人信仰である。出産時に、赤子が順調に産道を辿って生れるのを待つという意味から「マツドウ様」「マツド様」「オマチド様」などと呼ばれ、現在も安産の神様として信仰されている。子安信仰が女人成仏（血ノ池地獄からの救済）を二次的にしたのと対照的に、待道信仰はその発祥が日本で最初に女人成仏の血盆経が出現したとされ、関東地方の血盆経信仰の中心地であった我孫子市湖北の古刹である曹洞宗・正泉寺の末寺（岡発戸・白泉寺）であるのが興味深い。千葉県には現在のところ、六六基の待道塔が現存している。

三　野田市の女人信仰

北総地方の女人講の動きを見てきたが、ここからは千葉県最北部にあたり、利根川・江戸川に挟まれた野田市域の女人信仰の状況を、考察してみることとしたい。

野田市域の女人講によって造立された供養塔は、十九夜塔二六三基、淡島塔一四基、待道塔一〇基、子安塔四基などが主なものであるが、その他にも十三仏塔、地蔵塔、手児奈塔など多くの塔が女性達によって建てられている。

野田市吉春　薬師堂女人講絵馬　明治７年

（一）十九夜講

市内に残存する十九夜塔は、『野田市金石調査資料集』に報告されている一八三基に、筆者の調査で新しく確認した三六基と旧関宿町四四基をプラスした二六三基で、千葉県でNo.1の造立数である。

江戸後期に入ると、野田市より利根川下流では子安講や待道講への講替えが顕著となるが、野田市域の女人講は一貫して十九夜講が主流であった事が、十九夜塔の多い要因の一つであると思われる。

又、野田市は一市と云えども、近世において河川交通・醤油製

造・城下町などの特色を持つ地域が多様に存在しており、大都市・江戸の後背地として、経済繁栄の地であり当地の女性達の多くが重要な労働力として男性に伍する仕事に従事していたと思われる。

農地の少ない山間部の地域などには、女人講造立の石塔など無いに等しい場合も見られ、それらに比して市内に残存するこの夥しい十九夜塔は、野田市域の近世・近代の女性達の経済力を象徴しているのだと思わざるを得ない。

①新生・十九夜講

十九夜塔造立の推移から読取れることは、北総地方に始まる女人講再編成に呼応するかのように、安永期より野田市域の女人講にも新たな胎動が始まっていることである。

この時期、百年余り続いた既存の十九夜講は転換期を迎え、指導組織等の変化によるものか十九夜講の新興勢力が台頭したものと推察され、化政期には大きな十九夜ブームが到来している。野田市全域に十九夜塔が造立されたのはこの大ブームの最中のことである。

②関宿町北部・関宿藩領の十九夜信仰

関宿江戸町　薬師堂　文政６年

特筆すべきことは、市域北部の関宿地区の十九夜講である。幕藩時代は関宿藩の城下町であった地域であるが、文化年間まで十九夜塔の造立が全く無かったものが、関宿台町・大竜寺前の文化三年（一八〇六）三月造立の塔を皮切りとして、化政期の二五年間に一四基の造立をみている。

それら全てが塔の華麗さを競うように、基檀部に講中の女性名を刻み、十九夜塔と刻まれた角柱上に六臂の優美な如意輪観音像をいただく凝った造りである。このブームは隣接する同じ関宿藩領の茨城県・五霞町にも同時期に起こり、ここでは十年余の間に二三基の同型の造塔が確認される。

表３は筆者が知り得た、野田市以北の利根川べりの十九夜塔造立数であるが、概ね野田市と同じ造立曲線を描いており、埼玉東北部・利根川西岸においては、先の関宿藩領と同じく文化年代から初めて十九夜念仏信仰を受け入れた地域がみうけられる。

この時期、子安講・待道講によって衰退をたどる利根川下流に反して、関宿以北の地域では十九夜講が急速に拡大し、幸手市にも天保年間にブームが到来している。

③旧野田町の十九夜塔

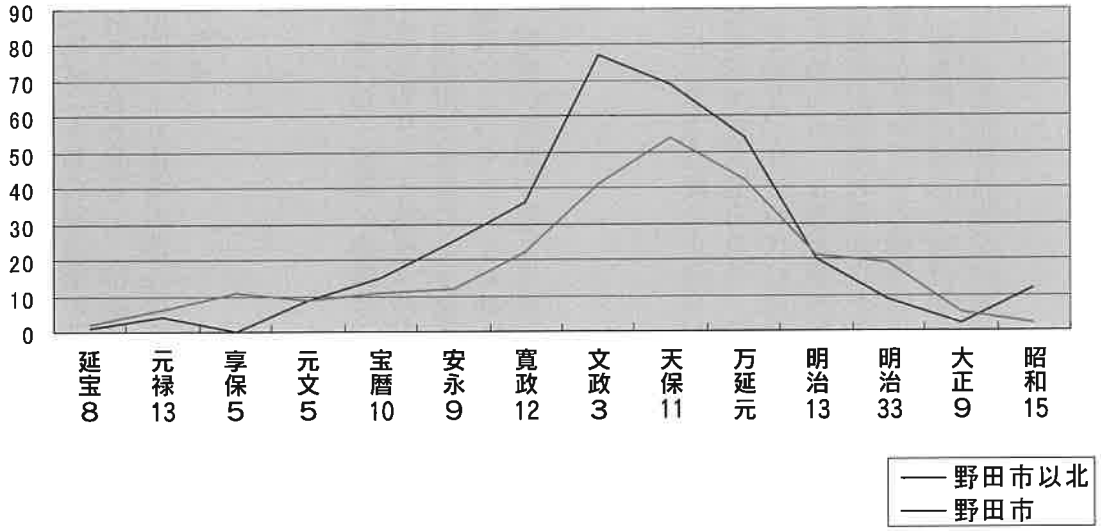
旧野田町は言うまでもなく、江戸後期より醤油製造地として大きく繁栄した都市型の地域である。人口も多く、江戸文化がストレートに伝わる地域であることから、女人講も独特で（十三仏講・淡島講など）下総地方の女人講の流れと少し異なる傾向が見られ、講が分散したせいか十九夜塔に関しては、一部の

野田市今上　覚貞寺　十九夜塔群

表３　野田市及び野田市以北の十九夜塔年代別造立数

年号	西暦	野田市	茨城県			埼玉県					
			境	五霞	総和	幸手	栗橋	大利根	北川辺	加須	羽生
延宝 8	1680	2				1					
元禄13	1700	6			3				1		
享保 5	1720	11									
元文 5	1740	9			9						
宝暦10	1760	11	3		10				2		
安永 9	1780	12	3		14	2			6		5
寛政12	1800	22	6		16	3	1	3	4	3	3
文政 3	1820	41	6	21	19	3	10	8	3	7	6
天保11	1840	54	6	3	16	15	13	6	3	7	7
万延元	1860	42	2		23	18	2	1	6	2	7
明治13	1880	21			8	8		2	2		
明治33	1900	19			2				1	6	
大正 9	1920	5			2						
昭和15	1940	2			10			2			
15年以降				2	3						
不明	不明	6					1		1		
合計		263	26	26	135	50	27	22	29	25	28

図３　野田市及び野田市以北の十九夜塔造立の推移



寺院に巨大なものや華美なものがある以外は目立った特徴はない。

④河岸場の女人講

野田市内の十九夜塔の半数は、河岸場周辺の寺院や寮に造立されている。形状やデザイン等は華美ではないが、永年にわたって十九夜講が継続され、造塔が繰り返されおり、川べりの女性達の経済力や連帯の強さが伺える。

「十九夜十九夜十九日　春の彼岸の十九日　彼岸おしょいとまいるべし　彼岸おしよいのえときえは　八万四丈の血の池を　東海道と見て渡る　其のため十九夜申し置く　十九夜念仏有り難や」

これは平成十六年・野田市刊行の『尾崎・東金野井の民俗』に収録されている十九夜和讃である。この中で筆者が注目しているのは「えときえ（絵解き絵）」という言葉である。かつては宗教者が民衆を教化する方法のひとつとして、地獄絵図などを用いて教義を説き聞かせることがあった。

熊野比丘尼なども絵解きを布教の戦略としていたことは知られており、十九夜講への教化にもこの方法が使われたのではあるまいか。血の池地獄で獄卒に攻められる絵解きに、女性達は震えあがったに違いない。

（二）その他の女人講

野田市では十九夜講が女人講の主流であるが、地域により異なる女人講造立の供養塔も散見される。隣接する柏市や流山市よりの伝播と思われる待道塔や子安塔が南部地区に見受けられる。又、石造物に限らず各地区の鎮守神社に掲げられた女人講の集合拝み絵馬には、香取・息栖・鹿島の三社参りや船橋大神宮の太々神楽奉納の図など明治後の寺社参詣額も多く、当地の女性達の活発な信仰活動は注目すべきものがある。

①待道講

南部地区と福田地区に十基の待道塔が確認される。隣接する柏・流山市からの伝播とおもわれるが、待道塔の建てられた地域においては、幕末・明治期の十九夜塔の造立は無いことから、待道講に移行したものと思われる。

②子安講

野田市以南に広まった子安講の影響は、石造物的にみると極めて少ない。「十社子安大明神」が確認されるが、子安観音を刻む供養塔は皆無であり、利根川下流域のような子安信仰の大きな広がりはみられないが、地区によっては「子安講」や「子安観音堂」も散見される処もあり、信仰が無かったとは言い切れない。

③淡島講

旧野田町を中心に、幕末以降に十四基の造立があり、船形地区には木像の淡島様を祀るお堂も見られる。淡島信仰は紀州・加太村の淡島神社を元にしており、江戸時代に淡島願人という下級の宗教者達によって全国に広められ、安産祈願や縁結びの対象としても信仰された。単発的に造塔が為され信仰される場合が多く、野田市のように十四基もの造塔がされている地域は珍しい。

旧野田町では、淡島塔の造立と同時期に十九夜塔が何基も建てられていることから、淡島信仰は女性の婦人病除けとして信仰されたものと思われる。

おわりに

難産の末に疲れ果てての出産を経験している筆者にとって、本稿に登場する血盆経とは、なんと腹立たしい御経かと思う。

命がけで子を産み、慈しみ育てる女性に向って、「出産時の出血等の穢れによって血ノ池地獄に堕する」とは何事であろうか。現在では、この血盆経は悪名高い偽経とされていると聞くが、このような謂われのない言い掛かりによって長い間、「女性は不浄の者」という差別を受けていたのである。

この経をベースとした十九夜念仏が流布された利根川流域は、特に女性差別に泣いていたかに思われるが、それは違うような気がしている。奥底に流れる思想はさて置き、出産・子育の苦労を良く知る女性同志の講集団では、子育てや家庭運営の情報交換や相互扶助（頼母子講等）が行われたであろうし、出産時には講仲間の念仏による応援もあったはずである。無念にも産死者となれば、十九夜講集団による手助けで「流れ灌頂」が調えられ、月々の供養により「堕地獄」からの救済も約束されている。当時の女性達にとって十九夜講は誠に心強い女人集団であったと推測される。

現在では男女平等の思想が行き渡り、女性の社会的地位も活動範囲も広がっている。又、出産・子育に関しても医療やマスコミの発達や経済的な豊かさにより、子育ての苦労は大幅に軽減したと思われる反面、母親達の孤立化による子育て放棄や虐待が進む傾向にある。地域における現代版・十九夜講（女性連帯集団）のような女性達のネットワークが出来ないものであろうか。

[参考文献]

『野田市金石資料集』野田市教育委員会　一九六七

『柏市金石文調査』柏市教育委員会　一九七四

庚申懇話会編『日本石仏辞典』　雄山閣　一九七五

『五霞村の石造文化財』五霞村教育委員会　一九七九

『加須市の石仏』加須市教育委員会　一九七九

『千葉県石造文化財調査報告』千葉県教育委員会　一九八〇

『会誌第十号』境町の文化財を守る会　一九八二

『船橋市の石造文化財』船橋市教育委員会　一九八四

『大利根町の路傍の石仏』大利根町教育委員会　一九八五

『総和の石仏』総和町教育委員会　一九八五

『流山の石仏』流山市教育委員会　一九八七

『松戸市石造文化財所在調査概要』松戸市文化ホール　一九八七

沖本博著『千葉県の十九夜塔』日本の石仏四九号　一九八九

『白井町石造物調査報告書』白井町教育委員会　一九八九

『栄町の石造物』栄町教育委員会　一九八九

『沼南町の金石文』沼南町教育委員会　一九九二

『北川辺町の石仏』北川辺町教育委員会　一九九二

榎本正三著『女人哀歓―利根川べりの女人信仰』　崙書房　二〇〇〇

近江礼子著『利根川べりの女人信仰―待道大権現を追って』常総の歴史二五号　崙書房　二〇〇〇

近江礼子著『石岡市の女人信仰』茨城の民俗四一号　二〇〇二

『関宿町の石造物』拙書　私家版　二〇〇二

『栗橋町の石造物』栗橋教育委員会　二〇〇二

『野田市民俗調査報告書5　尾崎　東金野井の民俗』野田市史編さん委員会　二〇〇四

『我孫子市の石造物』我孫子市史研究センター　二〇〇五

[情報提供]

幸手市教育委員会

（いしだ・としこ　当館客員研究員）

野田市十九夜塔一覧

	所在地	主銘文	像容	造立年	西暦
1	山崎　福寿院	為奉造立十九夜念仏供養菩提也	如意輪観音	延宝六年八月十五日	一六七八
2	野田上町　無山坊	奉造立聖如意輪観世音念仏供養也	如意輪観音	延宝八年十一月吉祥日	一六八〇
3	目吹　花光院参道	奉供養十九夜念仏所願成就所	如意輪観音	貞享三年八月吉日	一六八六
4	五本南前　薬師堂	為十九夜念仏諸願成就也	如意輪観音	貞享五年七月一九日	一六八八
5	岡田　福寿院墓地	奉造立十九夜念仏所願成就	如意輪観音	元禄三年九月吉日	一六九〇
6	船形宮ノ下　富蔵院	奉供養十九夜念仏二世安楽処	如意輪観音	元禄三年十月吉日	一六九〇
7	平井　真蔵院墓地	奉納十九夜念仏供養為二世安楽也	聖観音	元禄四年三月吉日	一六九一
8	野田上町　無山坊	十九夜念仏・奉供養光明真言為結集菩提也	六地蔵	元禄十三年十月吉日	一七〇〇
9	東金野井　野中境辻	十九夜念仏供養	如意輪観音	宝永二年八月吉日	一七〇五
10	目吹　花光院参道	奉供養十九夜念仏諸願成就所	如意輪観音	宝永四年十一月十五日	一七〇七
11	五本南前　薬師堂	為十九夜念仏諸願成就菩提也	如意輪観音	宝永五年十一月吉日	一七〇八
12	瀬戸　八坂神社	奉造立十九夜念仏供養二世安楽也	如意輪観音	宝永五年十月吉日	一七〇八
13	上花輪太子堂　太子坊	奉念十九夜念仏成就所	如意輪観音	宝永七年十月吉日	一七一〇
14	野田下町　安心坊	奉造立如意輪観音為十九夜念仏供養成就也	如意輪観音	宝永七年十月吉日	一七一〇
15	木野崎新町　山王宮	奉唱十九夜念仏為二世安楽也	文字塔	宝永七年十月十九日	一七一一
16	新田戸　寿福院	奉造立念仏供養二世安楽也	聖観音像	正徳三年八月十九日	一七一三
17	野田上町　西光院	奉造立如意輪観音菩薩	如意輪観音	正徳四年十月吉日	一七一四
18	今上　覚貞寺	奉造立観音念仏講為善女楽也	如意輪観音	享保二年十一月	一七一七
19	野田上町　無山坊	奉供養十九夜念仏	如意輪観音	享保三年戌十月二十二日	一七一八
20	木野崎大畑　稲荷神社隣	奉供養十九夜念仏	如意輪観音	享保六年十月十九日	一七二一
21	目吹　観音院	□□造立供養十九夜念仏為現当二世也	如意輪観音	享保八年九月吉日	一七二三
22	下灰毛　下灰毛集会所	奉供養十九夜念仏諸願成就所	如意輪観音	享保十二年十月十九日	一七二七
23	目吹　観音院	奉建立供養十九夜念仏結衆為二世安楽也	如意輪観音	享保「　　」	一七三五
24	下三ヶ尾高野前　墓地	十九夜供養塔	文字塔	元文三年九月二四日	一七三八
25	今上　観音堂集会所	奉納　十九夜待	如意輪観音	元文三年十一月吉日	一七三八
26	東金野井　野中境辻	兼道標	如意輪観音	元文四年十一月吉日	一七三九
27	今上　秀覚寺	奉造願主如意輪観世音菩薩	如意輪観音	元文五年十二月吉日	一七四〇
28	目吹五区　福蔵院寮	奉供養十九夜念仏為現当二世安楽也	如意輪観音	元文五年十月吉日	一七四〇
29	今上　覚道坊	奉供養拾九夜念仏為現当二世安楽也	如意輪観音	寛保二年十月吉祥日	一七四二
30	東金野井　八幡神社	奉建立十九夜念仏供養	如意輪観音	寛保三年二月吉辰	一七四三
31	船形　観蔵院跡墓地	奉供養十九夜念仏三年修行之結願成就為二世安楽	文字塔	延享元年十月大善日	一七四四
32	今上　覚道坊	□立十九夜念仏供養二世安楽祈所	如意輪観音	□三丙寅十月吉日	一七四六
33	木間ヶ瀬砂南　共同墓地	十九夜念仏供養	聖観音	延享三年八月吉祥日	一七四六
34	三ツ堀　円福寺	奉供養十九夜念仏結願成就	如意輪観音	宝暦五年十月吉日	一七五五
35	三ツ堀　円福寺	奉供養十九夜念仏二世安楽所	如意輪観音	宝暦八年十月十九日	一七五八
36	今上　覚貞寺	十九夜	如意輪観音	宝暦九年十月吉日	一七五九

37	今上　秀覚寺	十九夜塔	如意輪観音	宝暦九年九月吉日	一七五九
38	今上　秀覚寺	十九夜念仏十二人	如意輪観音	宝暦九年十月吉日	一七五九
39	柏寺　下集会所		如意輪観音	宝暦十年十一月十二日	一七六〇
40	古布内　浄禅寺	十九夜念仏供養	如意輪観音	宝暦十二年十月吉日	一七六二
41	船形上野井　びんづる寮	奉供養十九夜念仏老若為二世安楽也	如意輪観音	明和六年九月大善日	一七六九
42	花井　不動堂墓地	奉供養十九夜念仏講中	如意輪観音	明和七年十月吉日	一七七〇
43	保木間　浄法寺	如意輪観世音	文字塔	安永二年十一月吉日	一七七三
44	西三ケ尾本郷　花咲寮	十九夜念仏菩薩塔／未見	如意輪観音	安永二年十一月吉日	一七七三
45	木間ヶ瀬大山　大日堂	十九夜念仏	如意輪観音	安永二年八月吉日	一七七三
46	清水　金乗院	奉供養為光明真言十九夜念仏二世安楽	文字塔	安永四年十月有朔日	一七七五
47	中根　宝蔵寺跡墓地	奉納十九夜念仏供養	文字塔	安永五年八月吉日	一七七六
48	宮崎　松隆院寮墓地	十九夜念仏供養	如意輪観音	安永七年十月吉日	一七七八
49	上花輪　東福寺	十九夜念仏供養	文字塔	安永七年十月吉日	一七七八
50	清水　八幡神社	十九夜念仏供養塔	文字塔	安永七年二月吉日	一七七八
51	上花輪太子堂　太子坊	十九夜供養	文字塔	安永八年十一月吉日	一七七九
52	野田上町　無山坊	十九夜念仏供養塔	如意輪観音	天明元辛丑十月吉祥日	一七八一
53	清水　新陵坊	奉造立十九夜念仏供養塔	如意輪観音	天明三年八月吉日	一七八三
54	中野台　三昧寺跡	十九夜念仏供養	如意輪観音	天明六年九月吉日	一七八六
55	横内　妙泉寺	奉供養十九夜念仏	如意輪観音	天明八年十一月吉日	一七八八
56	古布内高倉　不動墓地	十九夜塔	如意輪観音	天明八年十一月吉日	一七八八
57	上灰毛　青年館裏墓地	十九夜念仏供養	文字塔	天明八年十一月吉日	一七八八
58	野田下町　安心坊	十九夜念仏供養	如意輪観音	天明八年十一月吉日	一七八八
59	今上　覚道坊	十九夜念仏供養	如意輪観音	寛政元年十月吉日	一七八九
60	下灰毛　下灰毛集会所	十九夜念仏供養	文字塔	寛政二年十月吉日	一七九〇
61	山崎　福寿院	奉納十九夜念仏供養	如意輪観音	寛政二年二月吉日	一七九〇
62	今上　秀覚寺	十九夜供養	文字塔	寛政三年二月十九日	一七九一
63	三ツ堀　円福寺	奉念十九夜念仏供養	如意輪観音	寛政三年十一月十九日	一七九一
64	木野崎　林照寺跡墓地	十九夜念仏供養塔	文字塔	寛政四年二月吉祥日	一七九二
65	木野崎新町　山王宮	十九夜念仏供養	文字塔	寛政六年十一月吉日	一七九四
66	目吹　花光院参道	十九□□	如意輪観音	寛政六年六月吉日	一七九四
67	保木間　浄法寺	十九夜如意輪尊	如意輪観音	寛政六年十一月吉日	一七九五
68	尾崎　尾崎公民館	奉待十九夜供養塔	聖観音	寛政九年十一月吉日	一七九七
69	花井　不動堂墓地	奉供養十九夜念仏	如意輪観音	寛政九年十月吉日	一七九七
70	上花輪太子堂　太子坊	十九夜念仏	如意輪観音	寛政十年十一月吉日	一七九八
71	目吹　観音院	十九夜塔	如意輪観音	寛政十年十一月吉日	一七九八
72	中野台　鹿島神社参道	十九夜如意輪観世音	文字塔	寛政十一年二月吉日	一七九九
73	上花輪　東福寺	十九夜供養	如意輪観音	寛政十二年十一月吉日	一八〇〇
74	下三ケ尾　阿弥陀寺	十九夜念仏供養	如意輪観音	寛政十三年二月吉日	一八〇一

75	今上　覚貞寺	十九夜供養	如意輪観音	享和三年十一月吉日	一八〇三
76	吉春　成就院跡墓地	十九夜供養	如意輪観音	文化二年十一月吉日	一八〇五
77	清水　金乗院	十九夜如意輪観世音	如意輪観音	文化二年二月吉日	一八〇五
78	台町　昌福寺	十九夜供養塔	如意輪観音	文化三年四月吉日	一八〇六
79	台町　大竜寺	十九夜供養塔	如意輪観音	文化三年三月吉日	一八〇六
80	谷津　観音堂墓地	十九夜念仏供養塔	如意輪観音	文化三年二月吉日	一八〇六
81	木間ヶ瀬大山　大日堂	十九夜供養	如意輪観音	文化三年十一月吉日	一八〇六
82	目吹　花光院参道	十九夜供養	如意輪観音	文化三年十月吉祥日	一八〇六
83	中野台　三昧寺跡	十九夜供養塔	如意輪観音	文化五年十一月吉日	一八〇八
84	山崎　鏡円寺	十九夜女人講供養塔	如意輪観音	文化六年二月十九日	一八〇九
85	目吹　宮作墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	文化六年十月吉祥日	一八〇九
86	三ツ堀　円福寺	奉供養十九夜　女講中	如意輪観音	文化七年十一月吉日	一八一〇
87	中根　宝蔵寺跡墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	文化九年二月吉祥日	一八一二
88	桜台　観音堂	十九夜供養塔	如意輪観音	文化十年十一月吉日	一八一三
89	台町　福寿院	十九夜供養塔	如意輪観音	文化十年七月吉日	一八一三
90	堤台　子育地蔵尊前墓地	十九夜供養塔	文字塔	文化十年十一月吉日	一八一三
91	野田下町　安心坊		如意輪観音	文化十年四月吉日	一八一三
92	野田上町　西光院	十九夜塔	如意輪観音	文化十年十一月十九日	一八一三
93	上花輪　東福寺	十九夜供養	如意輪観音	文化十一年十月吉祥日	一八一四
94	瀬戸　勢至墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	文化十一年十月吉日	一八一四
95	台町　福寿院	十九夜供養塔	如意輪観音	文化十一年九月	一八一四
96	中里阿部　妙楽院寮	サ　十九夜供養	文字塔	文化十一年二月吉日	一八一四
97	二ツ塚　香取側墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	文化十一年十月吉日	一八一四
98	横内　妙泉寺	十九夜念仏供養塔	如意輪観音	文化十二年二月吉日	一八一五
99	台町　光岳寺入口	十九夜供養塔	如意輪観音	文化十二年十一月	一八一五
100	五木南前　薬師堂	サ　十九夜菩薩	文字塔	文化十三年三月吉日	一八一六
101	上花輪太子堂　太子坊	十九夜供養塔	文字塔	文化十四年十月吉日	一八一七
102	船形石塚　石塚寮	十九夜供養塔	如意輪観音	文化十四年十一月吉日	一八一七
103	船形大和田　宝光院寮	十九夜供養塔	如意輪観音	文化十四年十一月吉日	一八一七
104	江戸町　清信寺跡入口	如意輪圓運尊塔	如意輪観音	文化十五年三月十九日	一八一八
105	宮崎　松隆院寮墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	文政元年十一月吉祥日	一八一八
106	小山　稲荷神社	十九夜供養塔	如意輪観音	文政元年七月吉日	一八一八
107	中野台　鹿島神社参道	十九夜供養塔	如意輪観音	文政元年十月吉日	一八一八
108	野田下町　安心坊	十九夜念仏碑	如意輪観音	文政元年十一月吉日	一八一八
109	今上　覚道坊	十九夜供養塔	如意輪観音	文政二年三月吉祥日	一八一九
110	野田上町　無山坊	奉供養如意輪観自在菩薩	如意輪観音	文政二年十一月吉祥日	一八一九
111	木野崎　観正寺跡墓地	十九夜供養	如意輪観音	文政三年十月吉日	一八二〇
112	江戸町　大日堂稲荷社	十九夜供養塔	如意輪観音	文政三年三月吉日	一八二〇

113	今上　秀覚寺	十九夜供養	文字塔	文政三年二月吉日	一八二〇
114	中根　宝蔵寺跡墓地	十九夜供養塔	文字塔	文政三年二月吉祥日	一八二〇
115	今上　覚貞寺	十九夜念仏供養	文字塔	文政五年二月吉日	一八二二
116	江戸町　薬師堂	十九夜塔	如意輪観音	文政六年二月吉祥日	一八二三
117	江戸町　薬師堂	十九夜供養塔	如意輪観音	文政六年二月吉祥日	一八二三
118	清水　新陵坊	十九夜供養	如意輪観音	文政六年二月吉日	一八二三
119	山崎　海福寺	十九夜供養	如意輪観音	文政八年十一月吉日	一八二五
120	台町納谷　稲荷神社	十九夜塔	文字塔	文政八年十一月吉日	一八二五
121	下灰毛　下灰毛集会所	十九夜供養	文字塔	文政九年十一月吉祥日	一八二六
122	岩名　真光寺	十九夜念仏供養塔	如意輪観音	文政九年三月吉祥日	一八二六
123	上灰毛　青年館裏墓地	十九夜塔	文字塔	文政九年十一月吉祥日	一八二六
124	清水　金乗院	拾九夜供養塔	文字塔	文政九年九月吉祥日	一八二六
125	台町　昌福寺	十九夜供養塔	如意輪観音	文政九年正月吉日	一八二六
126	木間ヶ瀬新宿　観音坊	十九夜塔	如意輪観音	文政九年	一八二六
127	木野崎　林照寺跡墓地	十九夜供養塔	文字塔	文政九年十一月吉祥日	一八二六
128	木野崎高根　恵空寺	十九夜念仏供養塔	如意輪観音	文政九年十一月吉祥日	一八二六
129	目吹　花光院参道	十九夜供養塔	如意輪観音	文政九年十一月吉祥日	一八二六
130	木野崎新町　会館墓地	十九夜供養	如意輪観音	文政十年十月吉日	一八二七
131	江戸町　清信寺跡入口	十九夜供養塔	如意輪観音	文政十年三月吉日	一八二七
132	西高野　西高野会館	十九夜供養塔	如意輪観音	文政十年三月吉日	一八二七
133	鶴奉　大日堂墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	文政十年十月吉日	一八二七
134	蕃昌　昌光会館	十九夜供養	如意輪観音	文政十年十一月吉日	一八二七
135	保木間　浄法寺	十九夜念仏供養	如意輪観音	文政十年十一月吉日	一八二七
136	目吹　宮作墓地	十九夜供養	如意輪観音	文政十一年二月吉日	一八二八
137	座生　座生権現／未見	十九夜供養塔	如意輪観音	文政十一年十一月吉日	一八二八
138	谷津　観音堂墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	文政十二年十一月吉日	一八二九
139	木野崎大畑　稲荷神社隣	十九夜供養塔	文字塔	文政十三年十月吉日	一八三〇
140	船形松山　松山寮	十九夜塔	文字塔	文政十三年十一月吉日	一八三〇
141	台町　昌福寺	十九夜供養塔	如意輪観音	文政十三年六月吉日	一八三〇
142	野田下町　安心坊	十九夜供養	文字塔	文政十三年霜月吉旦	一八三〇
143	山崎　士見寺跡	十九夜塔	如意輪観音	天保二年十一月吉日	一八三一
144	上花輪　東福寺	十九夜供養	如意輪観音	天保二年十月良辰	一八三一
145	船形大和田　観音寺寮	十九夜供養塔	如意輪観音	天保二年十一月吉日	一八三一
146	中野台　三昧寺跡	十九夜供養塔	文字塔	天保二年十一月十九日	一八三一
147	下三ケ尾　阿弥陀寺	十九夜供養塔	如意輪観音	天保三年二月吉日	一八三二
148	下三ヶ尾　香取駒形神社	十九夜供養	如意輪観音	天保三年二月吉日	一八三二
149	瀬戸　江川墓地	十九夜供養	如意輪観音	天保三年十一月吉日	一八三二
150	古布内高倉　不動墓地	十九夜塔	如意輪観音	天保四年一月吉日	一八三三

151	今上　秀覚寺	十九夜塔	文字塔	天保四年二月吉日	一八三三
152	中里阿部　妙楽院寮	十九夜塔	文字塔	天保四年中秋吉日	一八三三
153	上花輪太子堂　太子坊	十九夜供養塔	如意輪観音	天保五年十一月吉日	一八三四
154	五木南前　薬師堂	十九夜供養	文字塔	天保六年十一月	一八三五
155	中里　満蔵寺	十九夜供養	文字塔	天保六年二月吉祥日	一八三五
156	木間ヶ瀬飯塚　会舘横	十九夜塔	如意輪観音	天保六年十一月吉日	一八三五
157	野田上町　無山坊	十九夜供養	文字塔	天保六年十一月吉日	一八三五
158	中里　西岸寺	如意輪観音像　女人講中	如意輪観音	天保七年二月吉日	一八三六
159	岩名　真光寺	十九夜	文字塔	天保九年四月吉日	一八三八
160	今上　覚道坊	十九夜供養塔	如意輪観音	天保九年三月吉日	一八三八
161	中根　宝蔵寺跡墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	天保九年十月吉日	一八三八
162	山崎　東大和田墓地	十九夜塔	文字塔	天保九年十一月吉日	一八三八
163	野田上町　西光院		如意輪観音	天保十年九月吉日	一八三九
164	今上　観音堂集会所	十九夜塔	文字塔	天保十年十月吉日	一八三九
165	山崎　福寿院	十九夜塔	文字塔	天保十年十一月吉日	一八三九
166	西三ヶ尾西前　正西坊	十九夜供養塔	文字塔	天保十年十一月吉日	一八三九
167	目吹　宮作墓地	供養塔／不明	如意輪観音	天保十年十一月吉日	一八三九
168	鶴奉　大日堂墓地	巡拝塔兼	如意輪観音	天保十一年二月四日	一八四〇
169	尾崎　尾崎公民館	十九夜供養	如意輪観音	天保十二年十一月吉日	一八四一
170	吉春　地蔵堂墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	天保十二年十一月二十日	一八四一
171	上花輪　東福寺	十九夜供養	如意輪観音	天保十二年十一月吉日	一八四一
172	木間ヶ瀬内野　神明神社	十九夜供養	文字塔	天保十三年四月吉日	一八四二
173	鶴奉　神明神社裏墓地	十九夜□□	如意輪観音	天保十三年八月	一八四二
174	横内　妙泉寺	十九夜供養塔	如意輪観音	天保十三年十一月吉日	一八四二
175	山崎　海福寺	十九夜塔／不明		天保十四年正月吉日	一八四三
176	木間ヶ瀬武者土　大日堂跡	十九夜塔	文字塔	天保十四年二月吉日	一八四三
177	岡田　福寿院入口	前面剥離	如意輪観音	天保十四年十月吉日	一八四三
178	今上　覚貞寺	十九夜	如意輪観音	天保十四年十月□日	一八四三
179	三ツ堀　円福寺	十九夜	如意輪観音	天保十四年十月吉日	一八四三
180	山崎　大崎墓地	十九夜供養塔		天保十四年十月吉日	一八四三
181	木間ヶ瀬下根　薬師堂	十九夜塔	文字塔	天保十四年十月吉日	一八四三
182	清水　車坊	十九夜塔	如意輪観音	天保十四年十一月吉日	一八四三
183	岩名2　第5自治会舘	十九夜念仏	如意輪観音	天保十四年十一月十九日	一八四三
184	堤根　静安寺跡墓地	十九夜供養塔	文字塔	天保十五年十一月吉日	一八四四
185	新田戸　寿福院		如意輪観音	天保／下部崩壊	一八四三
186	木野崎本郷　観正寺跡墓地	十九夜供養	如意輪観音	弘化四年十月吉日	一八四七
187	船形大和田　宝光院寮	十九夜供養	如意輪観音	弘化四年十一月吉日	一八四七
188	中野台　鹿島神社参道	十九夜供養	文字塔	弘化四年十月十九日	一八四七

189	木野崎鹿野　鹿野寮跡	十九夜供養	文字塔	弘化四年十一月吉日	一八四七
190	桜台　観音堂	十九夜供養塔	如意輪観音	弘化五年三月吉日	一八四八
191	内町　神明神社向	十九夜供養塔	如意輪観音	嘉永元年三月吉日	一八四八
192	船形谷津野　不動尊	十九夜供養	如意輪観音	嘉永元年十一月十九日	一八四八
193	台町納谷　稲荷神社	十九夜塔	如意輪観音	嘉永元年十二月吉日	一八四八
194	上灰毛　青年館裏墓地	十九夜供養塔	文字塔	嘉永二年二月吉日	一八四九
195	上花輪太子堂　太子坊	十九夜供養塔	如意輪観音	嘉永三年十一月吉日	一八五〇
196	五木南前　薬師堂	十九夜供養	如意輪観音	嘉永四年二月十九日	一八五一
197	船形山中　上自治会館	十九夜供養	如意輪観音	嘉永四年二月十九日	一八五一
198	下灰毛　下灰毛集会所	十九夜供養	如意輪観音	嘉永四年十一月吉日	一八五一
199	吉春　外和堂跡墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	嘉永四年十一月吉日	一八五一
200	岩名　真光寺	十九夜念仏供養塔	如意輪観音	嘉永五年カ	一八五二
201	今上　秀覚寺	十九夜塔	文字塔	嘉永五年二月吉日	一八五二
202	中野台　三昧寺跡	十九夜供養	文字塔	嘉永五年十月吉日	一八五二
203	大殿井　不動院	十九夜供養塔	文字塔	嘉永五年十一月吉日	一八五二
204	上三ヶ尾根郷　路傍	十九夜供養	如意輪観音	嘉永七年三月吉日	一八五四
205	東親野井　八坂神社	十九夜塔	文字塔	嘉永七年六月十九日	一八五四
206	中里　西岸寺	十九夜供養	如意輪観音	嘉永七年十月吉日	一八五四
207	関宿上谷中　堤防下	十九夜塔	文字塔	安政三年三月日	一八五六
208	西三ケ尾本郷　花咲寮	十九夜供養	文字塔	安政三年三月吉辰	一八五六
209	目吹　馬頭堂	十九夜塔	如意輪観音	安政四年十月吉日	一八五七
210	上花輪　東福寺墓地	十九夜供養／不明	如意輪観音	蔓延元年十一月吉日	一八六〇
211	中野台後台　公園前墓地	十九夜供養	文字塔	文久元年　日雉弓滅	一八六一
212	保木間　浄法寺	如意輪像　供養塔	如意輪観音	文久元年十一月吉日	一八六一
213	目吹　花光院参道	十九夜塔	如意輪観音	文久元年十一月吉日	一八六一
214	目吹五区　福蔵院寮	十九夜塔	如意輪観音	文久元年十一月吉日	一八六一
215	船形宮ノ下　富蔵院	如意輪供養塔	如意輪観音	文久二年十月	一八六二
216	目吹　観音院	十九夜塔	如意輪観音	文久二年十月吉日	一八六二
217	今上　観音堂集会所	如意輪供養	如意輪観音	文久三年二月吉日	一八六三
218	古布内高倉　不動墓地	十九夜塔	文字塔	元治元年九月吉日	一八六四
219	中里阿部　羽黒神社	十九夜塔	文字塔	元治元年十一月吉日	一八六四
220	今上　覚貞寺	十九夜塔	文字塔	元治二年三月吉日	一八六五
221	中里　満蔵寺	十九夜塔	文字塔	慶應元年十一月吉日	一八六五
222	岩名　真光寺	如意輪観音	如意輪観音	慶應三年十一月吉日	一八六七
223	古布内　表坪公会堂	十九夜塔	文字塔	慶應三年十一月吉日	一八六七
224	清水　車坊	十九夜塔	如意輪観音	慶應三年十一月吉日	一八六七
225	中里　西岸寺	十九夜塔	文字塔	明治三年十一月吉日	一八七〇
226	野田下町　安心坊	十九夜供養	文字塔	明治三年霜月吉祥日	一八七〇

227	木間ヶ瀬前村　西蔵院寮	十九夜供養碑	文字塔	明治四年十一月	一八七一	
228	上花輪太子堂　太子坊	十九夜供養塔	如意輪観音	明治五年十一月吉日	一八七二	
229	蕃昌　昌光会館	十九夜供養	如意輪観音	明治七年四月吉日	一八七四	
230	岡田　岡田集会所	十九夜塔	如意輪観音	明治八年四月吉日	一八七五	
231	中野台　報恩寺浅間塚	十九夜供養	文字塔	明治十三年四月	一八八〇	
232	宮崎　松隆院寮墓地	十九夜塔	文字塔	明治十四年十二月建立	一八八一	
233	上花輪　東福寺	十九夜供養	如意輪観音	明治十四年二月十九日	一八八一	
234	山崎　大崎墓地	十九夜供養		明治十七年四月吉日	一八八四	
235	岩名２　第５自治会館	十九夜塔	如意輪観音	明治十八年十一月吉日	一八八五	
236	吉春　成就院跡墓地	十九夜塔	如意輪観音	明治十八年十二月十九日	一八八五	
237	中里　満蔵寺	聖如意輪観世音菩薩	文字塔	明治二十年三月良日	一八八七	
238	上花輪太子堂　太子坊	十九夜供養	如意輪観音	明治二十年三月十九日	一八八七	
239	船形山中　上自治会館	□□	如意輪観音	明治二十一年十一月十九日	一八八八	
240	木野崎本郷　観正寺跡墓地	十九夜供養	如意輪観音	明治二十二年三月吉日	一八八九	
241	岩名　真光寺	十九夜供養	如意輪観音	明治二十二年十二月吉日	一八八九	
242	船形石川山　八幡神社入口	十九夜塔／前面崩落	如意輪観音	明治二十二年三月	一八八九	
243	谷津　観音堂墓地	十九夜供養塔	文字塔	明治二十四年三月十九日	一八九一	
244	清水　八幡神社	十九夜塔	文字塔	明治二十五年三	一八九二	
245	船形上野井　びんづる寮	十九夜塔	文字塔	明治二十五年十一月十九日	一八九二	
246	今上　観音堂集会所	十九夜供□	文字塔	明治二十八年三月十九日	一八九五	
247	東金野井　遠藤家墓地	十九夜塔	文字塔	明治二十八年十二月	一八九五	
248	上花輪　東福寺	十九夜供養	如意輪観音	明治二十九年二月十九日	一八九六	
249	岩名本郷　勢至堂墓地	十九夜供養塔	如意輪観音	明治三十二年三月吉日	一八九九	
250	元町　吉祥寺	十九夜供養塔	如意輪観音	明治三十二年一月吉日	一八九九	
251	今上　観音堂集会所	十九夜塔	文字塔	明治四十年四月	一九〇七	
252	上花輪太子堂　太子坊	十九夜供養	如意輪観音	明治四十三年十二月十九日	一九一〇	
253	吉春　成就院跡墓地	十九夜供養	如意輪観音	大正三年四月十九日	一九一四	
254	岩名　真光寺	十九夜供養	文字塔	大正五年三月吉日	一九一六	
255	五木南前　薬師堂	十九夜供養	文字塔	大正六年三月	一九一七	
256	谷津　谷津自治会館	十九夜供養塔	文字塔	昭和五年四月吉日	一九三〇	
257	西町　白山神社	十九夜塔	文字塔	昭和八年旧十一月十九日	一九三三	
258	次木　次木公会堂	文字剥落	如意輪観音	不明（江戸）		
259	今上　覚貞寺	奉…上部欠	如意輪観音	不明（江戸）		
260	今上　覚貞寺		如意輪観音	不明		
261	台町　福寿院		如意輪観音	不明		
262	木間ヶ瀬下根　勢至堂		如意輪観音	□□□□□□十九日		
263	尾崎　尾崎公民館	十九夜塔	如意輪観音	記銘ナシ		

野田市十九夜塔以外の主な女人造立塔

待道塔

	所在地	主銘文	像容	造立年	西暦
1	山崎西大崎　浅間神社	待道大権現	文字塔	弘化元甲辰年三月吉日	一八四四
2	山崎　香取神社	待道大権現	文字塔	弘化四未稔仲春十七鳥	一八四七
3	下三ケ尾　駒形神社	待道大権現	文字塔	嘉永元戊申年六月吉日	一八四八
4	下三ケ尾　熊野山路傍	宝待道神社	文字塔	明治五壬申年二月吉日	一八七二
5	瀬戸　八坂神社	待道神社	文字塔	明治壬辛年十一月吉日	一八七二
6	上灰毛　稲荷神社	待道社	文字塔	明治十五年十一月吉日	一八八二
7	目吹下　香取神社	待道社	文字塔	明治十七年三月	一八八四
8	目吹上　香取神社	待道社	文字塔	明治十八年三月十五日	一八八五
9	木野崎大畑　稲荷神社	待道社	文字塔	明治十九年十月吉辰	一八八六
10	山崎南新田　流山街道	待道社カ	石祠	明治二十五年三月□□	一八九二

子安塔

	所在地	主銘文	像容	造立年	西暦
1	山崎里　集会所脇	十社子安大明神	文字塔	明和四丁亥天十一月吉日	一七六七
2	山崎南新田　流山街道	十社子安大明神	文字塔	文化十酉年	一八一三
3	木野崎新町　会館墓地	奉供養子安地蔵尊	子安地蔵	文政二年十月吉日	一八一九
4	木野崎高根　大神宮	十社子安大明神	文字塔	弘化五申二月吉日	一八四八

淡島塔

	所在地	主銘文	像容	造立年	西暦
1	目吹丸山道	粟島神社	文字塔	寛政八年九月	一七九六
2	中野台　天満宮	淡島大明神	文字塔	天保十四卯二月吉日	一八四三
3	上花輪太子堂　神明神社	淡島大明神	文字塔	嘉永五子年正月吉祥日	一八五二
4	上花輪　香取神社	粟島大明神	文字塔	嘉永七甲寅年陽月吉日	一八五四
5	三ツ堀　公民館通り	粟嶋大明神	文字塔	慶応元丑年十一月吉日	一八六五
6	中野台　天満宮	粟嶋大神	文字塔	明治五年壬申三月三日	一八七二
7	目吹城山　山林中	粟島大神	文字塔	明治十五年十二月吉日	一八八二
8	桜台　桜台神社	粟嶋大神	文字塔	明治二十年五月	一八八七
9	上花輪　香取神社	粟嶋大神	文字塔	明治二十四年四月	一八九一
10	目吹十年道	粟嶋神社	文字塔	明治二十七年十一月吉日	一八九四
11	中野台報恩寺　浅間塚	淡嶋神社	文字塔	明治二十九年四月	一八九六
12	上花輪　香取神社	粟嶋大神	文字塔	明治三十九年三月吉日	一九〇六
13	岩名　香取神社	淡島大神　道祖大神	文字塔	大正九年二月	一九一三
14	清水　八幡神社	粟島大神・大己貴神	文字塔	大正十二年四月	一九二三